

地球の裏側で復興に向かう人たちにココロはつながっていく

はるかな友に心寄せて

日本—チリ交流事業報告会&ミニコンサート

2010.2.27 チリ大地震 / 2011.3.11 東日本大震災

災禍に見舞われた2つの国、2つの町。

ひとりじゃないよ、僕たちはつながっている——。

宮城県志津川高校の生徒たちの詩、はるかな友を思うメッセージからチリ被災地の高校生たちとの交流は始まりました。

復興への思いを込めた両国の高校生の詩は、海の彼方で同じ経験をした友への励ましと優しさに溢れる

メッセージソングとなり、復興支援に取り組むアーティストに託され、両国の追悼式で献奏されます。

チリの国民的歌手、ケコ・ユングさんをはじめ、日智両国の被災地にまたがる交流を支えた音楽家、

コーディネーターをお迎えし、映像と音楽で事業の経過を振り返りながら、大規模災害からの復興に果たす文化芸術の力、

国際交流の役割について、皆様とともに考えたいと思います。

コンスティトゥション - チリ
Constitución Chile



南三陸町 - 日本
Minamisanriku Japan



日時：**3月15日 | 金 |** 入場無料
(定員120名 申込先着順)
19:00~20:15 (開場 18:30)



場所：**国際交流基金JFICホール [さくら]**

※使用言語は日本語 (スペイン語逐次通訳付)

※ミニコンサート終了後 (20:15~)、懇親会を開催いたします。

ウェブサイト：<http://www.jpjf.go.jp/j/culture/new/1301/01-07.html>

主催 | 国際交流基金、在チリ日本国大使館、「挑戦、たちあがろうチリ」(Desafío Levantemos Chile)

協力 | 南三陸町、南三陸町国際交流協会、宮城県志津川高等学校、有限会社ダ・ハプランニング・ワーク、
仙台市民交響楽団、トヨタ自動車株式会社、トヨタ・子どもとアーティストの出会い 仙台・宮城実行委員会、
南三陸ホテル観洋、ENVISI、公益財団法人福武財団、株式会社メディア・ゲート・ジャパン、アメリカン航空、
セルバンテス文化センター東京、コンスティトゥション市、ガブリエラ・ミストラル校、チリ軍警察、
チリ軍警察楽団、チリ銀行、ARAUCO、Cabanas Playa El Cable

後援 | 駐日チリ共和国大使館



はるかな友に心寄せて

宮城県志津川高校2年4組の生徒38名と、2010年2月のチリ大地震で被災したコンスティトゥション市ガブリエラ・ミストラル高校の生徒45名は、震災以降の自分たちの生活を振り返り、それぞれ詩(物語)を創りました。両国被災地の高校生らの復興への思いが込められたこれらの作品は、太平洋の反対側で同じ経験をした仲間を励ます2つのメッセージソングとなり、2月末に開かれるチリ大地震3周年追悼コンサートや、3月11日に行われる東日本大震災二周年追悼式で献奏されます。



ガブリエラ・ミストラル校3年B組ワークショップ



志津川高校2年4組ワークショップ

■ パネリスト



ケコ・ユング (チリ側コーディネーター/アーティスト)

サンチャゴ出身。1984年のデビュー以来、数々のヒット曲を発表したチリの国民的なシンガーソングライター。過去20年間のヒット曲を収録したベストアルバムはチリのレコード大賞を獲得。南米各国、カナダ、スペインなど、海外公演も豊富。チリ大地震の直後から音楽を通じた社会貢献活動を本格的に開始。NPO「挑戦、立ち上がるチリ」文化部長として「ドレミ・プロジェクト」(被災地や貧困地区の学校に楽器を寄贈し、音楽教育の普及を図る)、環境保護に関する啓蒙コンサート「青い地球。君が生きているなら、僕も生きている」などをチリ全国で展開。今回は大地震の被災地コンスティトゥション市の高校生らが書いた物語から歌を作り、南三陸町にメッセンジャーとして届けた。エクトル「ティト」ペソア(ギター)、ローラ・プライヤー(ヴァイオリン)の二人とともに初来日。



吉川 由美 (日本側コーディネーター)

宮城県出身。プロデューサー・演出家として東北六魂祭のパレード演出などを手がける。八戸ポータルミュージアム「はっち」文化創造事業ディレクター、宮城大学非常勤講師。東日本大震災の前から南三陸町の女性たちと町の人たちの物語を可視化する「きりこ」を素材としたアート・プロジェクトを行ってきた。2012年には南三陸町の5つの小学校で、震災後の1年を振り返る歌を作り、3月11日の追悼式で発表する「未来を歌に」というプロジェクトを行った。



佐藤 正隆 (日本側アーティスト)

宮城県出身。ギタリスト。3歳から両親にギターを習う。1988年、第1回仙台国際ギターフェスティバル、ジュニアギターコンクールで優勝、仙台市長賞を受賞。2000年以降、世界各国の国際ギターフェスティバルに参加、オスカー・ギリアなど世界的なギタリストのクラスを受講。2003年以降、東北地方を中心にコンサート活動を開始。クラシックに留まらず幅広いジャンルの音楽家と共演。仙台ギター教室を主宰する傍ら、宮城県内の大学や高校、中学校で積極的にギター指導に当たっている。東日本大震災後、現地で行われている追悼集会、追悼式にて演奏を行ってきた。「はるかな友に心寄せて」ワークショップでは、生徒たちが紡ぎ出したメロディーから、曲を作った。



法笙組 (日本側アーティスト)

福島県須賀川市の民謡家、小湊法笙(民謡小湊流2代目家元)とその一家、美鶴(妻)、美和(長女)、昭尚(長男)の4人ユニット。1996年、NHK六夜連続スーパーコンサート『縄文回廊』を機に結成された。民謡家、邦楽家としての各自の活動のほか、民謡をベースにアジアの音楽、ジャズ等とのコラボレーションにも積極的に取り組んでいる。2012年7月、宮城県仙台市で行われた東日本大震災復興イベント『東北六魂祭』に出演し、大きな反響を呼んだ。日本の音楽文化をチリにて披露すべく、「はるかな友に心寄せて」ワークショップで生徒がつくった詩の一部を、邦楽に編曲した。今回の報告会には、小湊法笙氏が参加。

はるかな友へ

宮城県志津川高校2年4組の
38名が創作した詩より

今は暗闇の道

でもきっといつか光は差し込む
きっといつか心の底から
笑える時が来る

つらいけど

ひまわりのように
空にまっすぐ伸びて行こう
上を向いて歩いて行こう
一輪の花に
ひとつひとつの花びらがあるように
私たちはひとりじゃない
一緒に未来を信じて歩いて行こう

ひとりじゃないよ

ぼくたちはつながっている
支え合って一歩ずつ
進んで行こう
世界はつながっている

がんばった分だけ

楽しくなれる
転んだ分だけ
強くなれる

やっぱり海がきれいだな

ずっと忘れない
一緒に歩いたこと
一緒に笑ったこと

一生懸命生きていけば

必ず光は見えるもの
今ある生命を大切に
We never give up!

■ お申込み・お問合せ

参加ご希望の方は3月12日(火)までに

- ① 名前
- ② ご所属
- ③ ご連絡先(電話/メール)を明記の上
下記宛先までお申込み下さい。

国際交流基金 文化事業部 米州チーム

E-mail: Hiromi_Kondo@jpf.go.jp

FAX: 03-5369-6038

TEL: 03-5369-6061

※ご記入いただく個人情報は、本イベントの実施目的のためにのみ使用させていただきます。

■ 会場アクセス



東京都新宿区四谷4-4-1

東京メトロ丸ノ内線「四谷三丁目」1番出口より徒歩3分。
(専用の駐車場はありませんので、ご了承下さい)